

ことです。

2番目ですけれど、これは先ほども言いましたように、いろいろな大きなテーマがあって、これ1つでというふうな、なかなか本当に難しく、そういう意味では、欲張ったものだとは思いますが、もちろんその中に工業遺産の維持、それから後世に伝える、それから、余りいい環境で住んでいなかった人たちにいい住環境を与える、そういったものはもろもろの中で、いろいろな大きなかさの下にある幾つかの要素で、一番の目的というか、コンセプトというか、都市計画及び環境保全面での改善とその充実を図る。それによって、結局、今まで人口が過疎の傾向にあったものをまた呼び戻してくると。そしたら、とにかく新しい職場もそこできっと誕生するだろうし、人もまた帰ってくる、Uターン現象も起こってくるだろうということです。

ですから、まちのイメージはこうこう変えるとか、こういったところのプロジェクトも、これはまさにそういうプロジェクトの1つで、なかなか一口で言うというのはないんですけど、一口で言うとしたら、そんなところでしょうか。何といても100以上のプロジェクトがあるものですから。

それから、こういったプロジェクトが起こった場合、大体普通、流れで幾つかの大きな柱、大きなテーマというのを立てるんです。ところが、例えばIBAの場合では、最初立ち上がったときに大きなテーマというのが7つあったんですね。それが今では、1、2、3、4、5と、いろいろなものが溶け込んで、ドッキングしてしまって5つになって、あるいはもとあったものがなくなったりしているわけです。それが自然の形であって、最終的にでき上がったものが、最初のスローガンとしてあったものと、私は違っても構わないと思うんです。逆にそれが自然の形であり得るというふうに考えております。

これは非常に回答は簡単です。こちらは州の力がすごく強くて、何ていうでしょうかね、16州あるんですけども、中央集権ではなくて、地方分権なんです。つまり連邦政府の管轄のところと州を管轄するのがしっかりしていて、簡単に言うと、例えば州は何を管轄しなきゃいけないかという、学校教育です。それから、州あるいは住民の保安、例えば警察だったり、そういったものというのは、まず州の管轄になります。こういったような都市計画、これも州の管轄になります。ですから、州の管轄だから州でやってくれと。ちなみに、じゃあ、どんなものが連邦政府の管轄であるかといいますと、例えばアウトバーンの建設とか、そういったものというのが国の管轄になってきますので、当然、国の方からお金が出なかったというのが回答です。

連邦政府の方が余り出なかったかわりに、EUの方から30%、かなり出ているんですけども。その理由なんです、エコロジカル都市もこのプロジェクトに入っているということが理由ですかということなんです、そうではなくて、EU基金というのは、実はEUの加盟国の消費税から抽出されているんです。ということは、経済から出てきたお金がいろいろ

ろなEU諸国にお金をまいていくというような形になっていくんですね。そのときに、エコロジカル都市というものを推進したいということではなくて、いろいろなところに、ポルトガル、スペイン、アイルランド、そのあたりのところでどういったところに統一しているかという、やはり工業化がすごく立ちおけているところなんかにも、かなりお金を投資しているんです。

逆に、ここは昔の工業地帯だったから、それを新しいものに再開発しようという、やはりルール地方に、EU自体が興味を持ったんですね、単純に。

ただ、EUからお金を抽出するのも結構大変です。もちろんEUの中で、促進手引というのがあって、手引書に入っていないものはだめなんです。

それから後は、こういったものにお金ちょうだいよと申請するときに、そういった促進手引にばっちり合ったものにする。やっぱりこちらのやり方もあります。それもやっぱりお金を抽出する、お金をどこからかもらう場合は非常に大切なテクニックかと思います。

これも先ほどのEU基金から出したというか、お金が結構スムーズに出た理由と結びつくんですけど、結局、こちらの機関としては、単なる仲介役あるいは紹介者では、やっぱりだめであって、そういった書類政策、本当にこちらも役所仕事というのがにありまして、こんなすごい書類が出てくるわけなんです。その提出の仕方、例えば、何度も言いますが、IBAプロジェクトというプロジェクトをとっても、非常にクオリティーの高いプロジェクトなんです。住環境のところをとっても、例えばこのシステムは、こうこうこうで、こういうものにしたいという、細かく提出書類に書かなきゃいけないんです。そういった役割をしたのも私たちですから、単なる建築家や、どこかの市町村の相談に乗ったとか、紹介役的なところ、補助的なというふうに言いましたけれども、もちろん大切なイニシアチブを握るところを握っていたわけです。

この地域なんですけれども、80年代の初頭ぐらいから、重工業、炭鉱の閉山が相次ぐわけです。それによって、例えば子どもの学校教育なんか見てもそうなんですけれども、学校がどんどんどんどん縮小して、そして最後には閉鎖になってくるなんていう問題も、例えばここに住んでいる住民のマネジメントに対する1つの大きな問題と言えるかと思います。そういう問題は、もちろん起きておまして、ただし、逆に、この地域だから、鉱山も閉鎖されているけれども、いまだに例えばサッカーのチーム、シャルケとか、そういったクラブが、今でも、例えばツォルフラインが支援して、スポンサーになっている。お金はどのくらいか知りませんが、シャルケであれば、どっかの鉱山がスポンサーで出しているらしいんですね、今でも。

逆に言うと、そういう伝統的な昔からそうだったんで、今でもそう続けているという面と、2つあると。全く違う、昔から残っている様式というか、昔から残っているものと全くまちがかわってしまったために大きな問題が起きているということがあって、これは正直言って、

一挙に解決できる問題ではないんですね、1つの自治体が。

例えばそういうふうになった場合は、普通はエッセン市だけがというよりか、ルール地方全体になって、つい最近、トヨタがヨーロッパに工場を出そうという話があって、そのときは、ルール地方は、物すごくうちに来てくださいというような運動をしたんですね、エッセン市だけではなくて。結局、残念ながら、ポルトガルにとられてしまったんですけれども。そういう形で、なるべく市なり、自治体の共同絡みでそういうような努力は実際今しているところです。

ですから、多様な人種、いろんな構造転換でいろんな人が住むようになったので、確かに昔のように、学校はこれぐらいで、公園は建てなくてもいいよ、といかなくなったのは逆に一面、すごく難しいところです。でも、そのかわりに、先ほど言ったように、すごい美術館が建ったりするわけです。

時間に限りがありますので、全部ご説明できなくて申しわけございませんでした。

○中井議員 どうもありがとうございました。

(I B Aエムシャーパーク ツォルフェライン)



